発表番号　０５　　観音寺市立高室小学校

１　研究主題

感じ・認め・つなぎ、学び合う子どもの育成
―　教科等の指導に ICT を効果的に活用した授業づくりを通して　―

２　研究の具体

日常的なタブレット端末の持ち帰りを通して、児童が ICT を文房具のように扱い、主体的に学ぶ高室スタイルの授業を構築する。今年度は、タブレット端末を持ち帰っての振り返りに視点をあて、２０３０学びのコンパスを参考に AAR サイクルを高室スタイルに取り入れ、教科の目標の達成、教育目標にせまる。

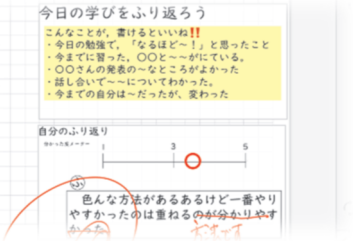
視点１　端末の持ち帰りによる家庭学習と授業を関連させた取組の工夫

・動画やデジタル教科書、デジタル教材などを用いた授業の予習や復習
・画像や動画、音声も取りこんだデジタルノートの効果的な活用
・授業の振り返りや宿題等の実施及び提出

教科書の PDF ノートに音読データを添付、参考資料の URL も添付し、予習や復習に活用する。

体育で自分たちの動きを録画、ノートに添付して話し合い、気付いた事を試してみる。

書写でお手本と自分の清書を比較、相互にも評価する。



紙での振り返りシートも撮影してデジタルノートに添付、タブレットに保存することで評価が容易になる。

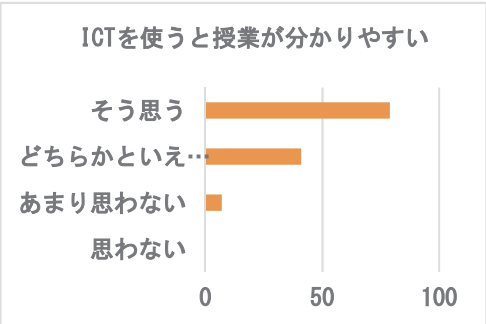
視点２　ICT 活用の日常化の工夫

・ICT を「文房具」として自由な発想で活用できるような環境整備の工夫
・学習履歴（スタディ・ログ）等の蓄積と効果的な活用
・情報モラル（デジタル・シティズンシップ）等の情報活用能力を育む指導の工夫

ワイヤレス接続での端末からミラーリング、印刷が可能、急速充電やモバイルバッテリーなどの環境整備を行った。

４年生は道徳で全時間デジタルノート化。思考ツールを用いて個々の立場を視覚化した。(過去のノートを見て自分の変容に気付ける)

カリキュラムマネジメントを通して全学年が系統的に指導、外部講師にも指導を依頼した。

３　研究の検証及び改善の手立て

○　児童の ICT スキルが高まり、文房具のように扱える児童が増えてきたことで、児童が主体的に情報収集、分析、交流して課題を解決しようとする態度が育ってきた。
○　日常的な持ち帰りについて保護者の理解も得られ、モラル的なトラブルは起こらなかった。連絡帳のデジタル化などにより家庭とつながることで、校務の効率化も図れた。
▲　民間の情報活用能力検定では、全国的な取組により昨年度より全国平均が上がっており、比較すると、本校の情報セキュリティやタイピング速度で課題が見られた。
▲　機器の劣化が進み、今後、メンテナンスの負担が予想される。